授業科目	＊保育内容総論					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	櫻井　裕介						
授業概要	1.　「保育内容とは」、「保育とは」という命題を基本に据え、幼児の生活や発達の姿から、保育内容を総合的に捉える考 え方を解説する。 2.　「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される保育内容について 事例研究や演習を通した学びを基に、保育内容を総合的に展開するため考え方や実践力の基盤を培う。　3.　遊びを中心とした保育と保育活動における教育的価値を考慮して、保育活動の構成と方法や保育者の配慮について学生 による模擬保育を通して、実践的に学びを深める。 ＊認可幼稚園（主任教諭含む）、認可保育所園長経験から園や子どもの画像や映像を通して、より具体的で実践的な授業展 開に取り組む。						
授業形態	演習			授業方法	プレゼンテーション		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1.　幼児期の子どもの生活や発達の特性を知り、保育内容が総合的に計画、展開される必要を理解する。 2.「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される内容を理解し、五領域の考え方や、保育内容の捉え方を身につけることができる。 3.　幼児の年齢や時期に適した保育内容の計画、特に環境の構成、援助について理解することができる。 4．発表準備を協力して行い、グループ発表することができる。 5.　発表資料を作成し、他人に伝わるように発表することができる。
理想的レベル	1.子どもの発達特性や生活の様子に大きな関心を持ち、身のまわりの子どもや保育を取り巻く状況について、書物・新聞・ テレビなどからの情報にも幅広く興味を持つ。そのために講義や演習で得た知識を発表に活かすことができる。 2.子どもが好きという気持ちから出発し、保育内容や保育方法の理解を深め、環境構成や教材準備を意欲的に行い、遊びを 中心とした模擬保育ができる知識や技能が備わっている。 3.保育のねらいと保育活動の関連性を理解し、子どもが主体的に活動できる保育内容を構成でき、子どもが理解できるよ うに伝えることができる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	40%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	50%	

レポート外の提出物		
その他	10%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH11307J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
授業の復習と発表準備	1

授業計画	
第 1 回	テーマ：授業ガイダンス 児童文化物と保育 子どもの姿（画像・映像）から学ぶ
第 2 回	遊びや生活を通して学ぶということ ねらいから保育活動を考える 【芋ほり遠足・畑】【年間行事】
第 3 回	子どもの行動と子ども理解 楽しいポイントとは 【お弁当つくりとお店屋さんごっこ】
第 4 回	伝承遊び 遊びと楽しいの要素に含まれる教育的価値とは
第 5 回	保育内容と保育のねらい ねらいから保育活動を考える 5 領域を具体化する 様々な保育形態
第 6 回	養護と教育が一体的に展開する保育 5 領域を具体化する 様々な保育形態
第 7 回	子どもの主体性を尊重する保育 発達過程と食育
第 8 回	行事について 学生による模擬保育
第 9 回	個と集団の育ちを支える保育 学生による模擬保育
第 10 回	児童文化物の取り扱い 学生による模擬保育
第 11 回	小学校への接続をふまえた保育 学生による模擬保育
第 12 回	保育の多様な展開 学生による模擬保育
第 13 回	特別な配慮が必要な子どもへの保育 学生による模擬保育

第 14 回	保育の評価と考え方 学生による模擬保育
第 15 回	まとめ
テキスト	「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説」. フレーベル館
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 阿部知子・前原寛・久富陽子　「新保育内容総論」　萌文書林　２０１０年 鯨岡峻「保育・主体として育てる営み」ミネルヴァ書房　２０１１年
課題に対するフィードバックの方法	レポートは個人が特定できないように配慮し、内容について全体へ口頭でフィードバックする。 模擬保育は発表中、発表直後に講評を行う。
学生へのメッセージ・コメント	1. 他教科での学びを、保育内容総論の中で活かすため、学習した内容や資料をきちんと整理しまとめておく。 2. 社会の変化と保育の役割に関して、参考図書・新聞・テレビなどの情報も把握して関心を深める。 幼児期の生活や遊びの楽しさを思い出し、味わいながら、基本的な保育の構造やあり方を学びましょう。そして、保育の基本を理解し、保育実践における乳幼児期にふさわしい生活や活動が理解できてから子どもの前に出られるよう、しっかり基礎を固めましょう。